



◆こんな仕事をしています

動物検疫所は、日本各地の空海港において、家畜の伝染病の侵入を阻止するための水際検疫を行っています。また、狂犬病やエボラ出血熱・マールブルグ病の侵入防止のために公衆衛生分野での検疫も行っています。さらに、きんぎょ、ホヤなどの水産動物やミツバチの検査も行います。検査対象は、生きている動物、畜産物、飼料用のわらなど多岐に渡ります。全国1本所8支所18出張所5分室ある職場は地域色も豊かで、海港・空港・国際郵便局、生きた動物の係留施設、精密検査室など、同じ職場とは思えないほど多様な職場環境です。

(写真：那覇空港で活躍している動植物検疫探知犬と職員ハンドラー)

◆職員数（定員）

- 動物検疫所全体 595名（令和6年度末 現在）
- 沖縄支所管内 25名（事務系3名・技術系22名）



◆採用について

農林水産省で実施される技術職員採用試験の受験が必要です。
採用の対象となる職種には以下の2種類があります。

- 獣医系技術職員（国家公務員採用総合職試験（院卒者試験）相当）
 - 畜産系技術職員（国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験）相当）
- 詳しくは動物検疫所ホームページの採用情報をご覧ください。



◆勤務地・転勤について

動物検疫所は、1本所（横浜）8支所（北海道・東北、成田、羽田空港、中部空港、関西空港、神戸、門司、沖縄）及び18出張所が全国に設置されています。採用後は数年間隔で本所及び各支所・出張所間での転勤があります。

また、農林水産省本省や他省庁、海外公館等へ転勤となることもあります。

◆魅力

転勤に伴い各地に居住することにより、各地の地理、歴史、風習に詳しくなります。職員も出身地がバラバラなので、例えば冬にはおでんの具材について激論を交わすことになります。（東海～西日本の人は“ちくわぶ”を知らない！）また、海外の珍しい食文化の一端にも触れられ、知的好奇心を刺激されます。まさに“食は文化なり”。

全国で500人強の小さな役所なので、一度転勤でお別れしても、またどこかで再会できます。

◆問い合わせ先

農林水産省 動物検疫所 沖縄支所
〒900-0001
沖縄県那覇市港町 2-11-1
那覇港湾合同庁舎 4F
Tel:098-861-4370
Fax:098-862-0093



動物検疫所 HP

先輩からのメッセージ



動物検疫所では、日本に家畜の伝染病が侵入するのを阻止するため、多岐にわたる業務を行っています。

私は、2010年に宮崎県で発生した口蹄疫が自分の生活にも大きく影響し、日本の水際防疫に携わりたいと思い志望しました。実際に業務を行うと、一つ一つの業務が日本の畜産業を守っていると実感し、やりがいを感じます。一方で旅客の荷物を開披検査したり、畜産物の合格判定を行ったりなど、とても責任を伴う業務です。空港で深夜便に対応するための夜勤や、出張対応での携帯品検査、全国異動は体力的に大変と感じるかもしれませんが、多くの刺激を受けることができます。（令和3年度入省 畜産系技術職 M.S.）

1日のスケジュール（例）

- 8:30 出勤
- 午前 国際郵便物の検査
輸入畜産物の書類審査
- 11:30 昼食
- 午後 国際郵便物の検査
- 15:00 石垣港での携帯品検査対応に向け移動
- 17:30 石垣空港に到着、前泊。
翌朝よりクルーズ船の携帯品検査対応

